

< 行動編 >

第5章 具体的な学習カリキュラムと学習プログラム事例について

どんなことを学ぶか

この行動編では、計画の目標である「自然の中で環境に対する理解を深め、自然を守り豊かにする市民を育てる」を実現していくため、市内の各課や施設で実施した学習活動及び市民団体などに対するアンケート調査などを整理し、1.自然の中で過ごしながら自然に触れ親しむ、2.動植物や生態系など自然環境に関する知識を深める、3.学んだ知識を活かして自然のために行動する、4.学んだことや取り組んだことを他の人に伝え、交流しながらさらに自然環境に対する考えや行動を深めていく、という以下の4つのカリキュラムを設定しました。

野外において環境学習活動を実施する際には、これらのカリキュラムに沿ってそれぞれの代表的な学習プログラム例を参考に実践するとより効果的です。

カリキュラム	学習のねらい	プログラム例
1 自然に親しむ		
1 - 1 自然の中で活動する	自然の中で遊んだり、自然の素材を使って遊んだりすることによって、自然に親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ ・自然の素材を使った遊び ・農作業体験
1 2 自然の様子を見る	自然の中を散策し観察することによって、自然に興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然散策、ハイキング ・ネイチャーゲーム
2 自然について知る		
2 - 1 地域の自然を知る	地域の自然・史跡などを見て、自然が織り成す環境について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察 ・史跡めぐり
2 2 生きものの知識を増やす	動植物をよく観察することにより、生きものに対する知識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物観察 ・動植物の飼育
2 3 自然の仕組みや人と自然の関わりを知る	個々の生きものの様子だけでなく、生態系の仕組みや人と自然の関わりについて考え理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察
3 自然のために行動する		
3 - 1 自然を守る	今ある自然を守るための活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の保全計画づくり ・森林などの管理活動
3 2 自然を豊かにする	自然をより豊かにするための活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアップ計画づくり ・緑化運動 ・ビオトープづくり
4 取り組みを広げる		
4 - 1 自主的に考えて行動する	自然のために何ができるか、自主的に考えて、企画・準備を行い、行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由研究
4 2 取り組みを伝える	自分の取り組みを発表したり、他の人と話し合うことで、自ら学んだことを周囲に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動発表、意見交換 ・活動事例調査

1 自然に親しむ

1 1 自然の中で活動する

このカリキュラムでは、まず自然の中で活動しながら、自然に親しむことを目的としています。

内容としては、自然の素材を使ったものづくりや遊び、ウォークラリー、野外スポーツ、キャンプ、農作物の収穫体験などがあります。

「見る」「聞く」「触る」「味わう」「においを感じる」と感覚を十分に活かして、自然を楽しみます。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

自然の素材を使ったものづくり	間伐材や草、ツルなどの自然の素材を使って、小物やオブジェなど、自由な発想を活かして工作をします。
自然の素材を使った遊び	草笛、竹とんぼなど、自然の素材を使って遊びます。
炭焼き体験	間伐材などを利用して炭焼き体験をします。
ウォークラリー/ オリエンテーリング	設定されたコースを歩いたり、チェックポイントを探したりするゲームです。チェックポイントで、地域の自然を観察できるように工夫します。
凧揚げ大会	凧揚げをしながら、風の動きを感じます。
カヌー	カヌーを通して、水辺に親しみます。同時に、水辺で遊ぶ際の安全対策を身につけます。
釣り	釣りをしながら、水辺の自然の様子を感じます。
キャンプ	キャンプを通して自然の中で活動します。
野外での食事づくり	屋外で協力し合いながら食事をつくります。
農作物を収穫する	農家の方をお願いして、農作物の収穫を行い、土に触れます。



学習プログラム例 1

1 - 1 自然の中で活動する	分野	活動フィールド	季節				
ウォークラリー	自然に親しむ	森林など	春夏秋冬				
自然の中を歩こう	対象者	参加人数	時間				
	子どもから大人	複数人	1時間程度～				
学習のねらいと内容 ・マップを頼りに決められたルート歩く。 ・歩きながら地域の様子を見て、地域の散策を楽しむ。							
事前に調べておくこと ・活動するフィールドの状況、見所、チェックポイントにする場所の確認 ・安全上、気をつける地点（車、地形など）の確認		必要な準備 ・ルートマップ ・各チェックポイントへのスタッフの配置計画 ・スタッフ同士の連絡体制の確認 ・参加者名簿（各チェック地点での確認用） ・雨天時の対応（実施の判断、参加者への連絡） ・救急用品					
主な学習内容 <u>ルールを確認する</u> ・ウォークラリーのルールを確認する。 ・参加者にルートマップを配り、ルートの状況やチェックポイントについて確認する。 ・安全のために注意すべきことを確認する。 <u>ウォークラリーを開始する</u> ・時間をずらしながら各参加者をスタートさせる。 ・各チェックポイントにスタッフを配置し、参加者の通過を確認する。 <u>参加者全員のゴールを確認し、感想を話し合う</u> ・参加者が全員ゴールしたことを確認する。 ・歩きながら感じたことを簡単に話し合う。							
実施時に気にしておくこと ・ルートを設定するときには、参加者にどんなところを感じて欲しいのか（景色、音、においなど）を考え、ルートマップに示しておく。 ・参加者全員が安全に通過しているか、各チェックポイントで確認する。		活動の後で ・歩いた地域についてどんなことを感じたのか、自由に意見を話し合う。					
いろいろな情報 場所について ウォークラリーはどこでも実施することができますが、「宇都宮市冒険活動センター」などの公園施設では、より安全に行うことができます。 たとえばこんなところで <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">うつのみや平成記念子どものもり公園</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>宇都宮市冒険活動センター</td> <td>028-669-2441</td> </tr> </table>				うつのみや平成記念子どものもり公園		宇都宮市冒険活動センター	028-669-2441
うつのみや平成記念子どものもり公園							
宇都宮市冒険活動センター	028-669-2441						

学習プログラム例 2

1 - 1 自然の中で活動する	分野	活動フィールド	季節
自然の素材を使った遊び 草花で遊ぼう	自然に親しむ	野原	春夏
	対象者	参加人数	時間
	子ども、親子	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 ・身近な季節の植物を使って遊ぶ。 ・遊びを通して、植物の形状を観察する。			
事前に調べておくこと ・安全に活動できる場所を確認する。 ・事前に下見をして、遊べそうな植物を確認する。		必要な準備 ・救急用品	
主な学習内容 <遊びの例> *活動場所に応じてできる遊びをする <u>草ずもう</u> 松の葉や、シロツメクサなどの茎をからませ、引っ張り合う。切れなかった方が勝ち。 <u>草の絵</u> ツユクサなどの色のきれいな草や、茎から汁がでる植物などを使って絵を書いてみる。 <u>花編み</u> レンゲソウ、シロツメクサなどを長く編み、首飾りなどを作る。 <u>草笛</u> スズメノテッポウ、ヨシの葉などを使った草笛に挑戦する。 <u>くつつき虫合戦</u> 服にくつつきやすい草の実をあつめ、お互いに投げ、草の実をくっつけ合う。 <u>笹船</u> 笹の葉でつくった船を川に流す。 <u>竹を使ったおもちゃづくり(竹とんぼ、水鉄砲など)</u> 地域のお年よりなど、作り方をよく知っている人に教えてもらいながら、自分で作ってみる。作ったおもちゃで遊ぶ。			
実施時に気にしておくこと ・竹とんぼづくりなど刃物を使う場合は、怪我をしないように十分に注意する。 ・決められた遊びだけをするのではなく、自由に遊びを考える。		活動の後で ・他の場所、他の季節でも行いながら、場所や季節の違いによって、植物の様子が異なることにも目を向ける。	
いろいろな情報			

1 2 自然の様子を見る

このカリキュラムでは、自然の中で活動するだけでなく、まちや自然の様子を良く見て、自ら感じたり気づいたりすることを目的としています。

内容としては、まちや自然の散策、ネイチャーゲームなどがあります。

自然に関する知識がなくても構いません。地域の森林、水辺、田んぼなどがどのようなになっているのか、どんなものがあるのか、各フィールドの特徴を意識しながら活動します。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

まち探検	まちの中を歩きながら、まちがどんな様子をしているのか、地域の自然がどうなっているのかを見て回ります。
ハイキング	地域の自然を散策し自然に親しみます。同時に、ごみを持ち帰るなど、自然に親しむ時のマナーを身につけます。
ネイチャーゲーム	様々な動植物を題材にしたゲームを楽しみます。五感を使って自然とふれあい、動植物の様子に目を向けます。
木の葉・木の実探し	特定の木々の葉や実を集めます。目的の葉や実を探しながら、様々な樹木の違いを意識します。
動物の足跡探し	動物の足跡を探します。足跡を探しながら、土の状態や足跡がある場所など、自然の様子をよく観察します。
草花探し	特定の草花を探します。目的の草花を探しながら、様々な草花の違いを意識します。

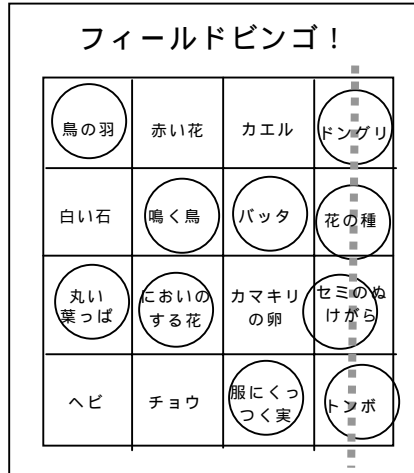


学習プログラム例 1

1 - 2 自然の様子を見る	分野	活動フィールド	季節
自然探検 川を見て歩こう	自然観察	河川	春夏秋
	対象者	参加人数	時間
	子ども、親子	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 <ul style="list-style-type: none"> ・観察ポイントを設け、川沿いを歩きながら、各ポイントの様子を調査票に書き込む。 ・現地を歩きながら、地域の川がどんな様子をしているのかを知り、川に興味を持つ。 			
事前に調べておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・現地の下見をしながら、できるだけ異なるタイプの観察地点を設定する。 ・移動中や観察中の安全を確保できるように、注意すべきことを洗い出しておく。 		必要な準備 <ul style="list-style-type: none"> ・探検ルートのマップ ・調査票、クリップボード、筆記用具 ・網、バケツ、虫眼鏡など ・長ぐつ、動きやすい服装 ・救急用品 	
主な学習内容 <u>ルートの概況と見学ポイントを確認する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者にルートマップと調査票を配り、川でどんなことを見るか確認する。 ・安全のために注意すべきことを確認する。 <u>現地を歩く</u> <ul style="list-style-type: none"> ・観察ポイントでは、以下のような点を見て、感じたことを調査票に書く。 川にはどんなものがあるか（橋・護岸などの構造物、生きもの、ごみ、石など）。近くに橋や史跡などがあれば、その名前を調べる。 それぞれの地点でどんなことを感じたのかを記録する。 <u>見学した結果を話し合う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・川を見てどんなことを感じたか、地点によってどのような違いがあったか、どんなことに興味をもったかなど、感想を話し合う。 ・これから調べてみたいことを話し合う。 			
実施時に気にしておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・常に全員が安全に行動しているかを注意する。参加者が大勢いる場合は、グループ分けし、それぞれスタッフが担当できるようにする。 		活動の後で <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを整理し、次にどんなテーマに結びつければ良いか（特定の場所の観察、川の生きものなど特定のテーマの観察、他の河川の観察など）考える。 	
いろいろな情報			

学習プログラム例 2

1 - 2 自然の様子を見る	分野	活動フィールド	季節
ネイチャーゲーム 「フィールドビンゴ」	自然観察	校庭、公園など	春夏秋冬
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	1時間程度～
学習のねらいと内容 ・植物や鳥、昆虫などといった生きものや、鳥の羽根、木の実、石など、様々な自然の「宝もの」を探しながら行うビンゴゲーム。 ・特定のものを探すことにより、自然の状況をよく観察する。			
事前に調べておくこと ・ゲームをする場所を下見し、現地で見つかりそうな「宝もの」を16個、見つけにくいそうな「宝もの」4個を選ぶ。 ・色、音、形、触感、においなどできるだけ様々な感覚を使えるように工夫する。		必要な準備 ・「宝もの」を書きだした模造紙 ・ビンゴカード（人数分） ・筆記用具	
主な学習内容 <u>グループを分け、「宝もの」を発表する</u> ・2～3人のグループに分かれる。 ・ゲームの方法を説明する。 ・模造紙を貼り出し、「宝もの」20個を発表する。 <u>ビンゴカードのマス目に「宝もの」を記入する</u> ・グループごとに、20個の「宝もの」の中から好きなものを16個選ぶ。 ・選んだ16個の「宝もの」をビンゴカードのマス目に1つずつ記入する。どのマス目を書くかは、各参加者が自由に決める。 <u>「宝もの」を探す</u> ・参加者全員がビンゴカードに記入し終わったら、「宝もの」を探す時間と行動範囲を伝える。 ・各グループ同時に「宝もの」探しを開始する。 ・「宝もの」が見つかったら、ビンゴカードに をつける。1列に4つ がつければビンゴになる。 <u>結果を報告しあう。</u> ・終了5分前になったら、各グループに声をかける。 ・時間がきたら全員集合し、見つけた「宝もの」やビンゴの数を数える。			
実施時に気にしておくこと ・それぞれの参加者が個別に行動するので、安全面での配慮を充分に行う。		活動の後で ・ゲームをしながら発見したことを教えあう。 ・場所や季節を変えてゲームを試みる。	
いろいろな情報 ネイチャーゲームとは、1979年、米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された自然体験プログラムです。いろいろなゲームを通して、自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気づくことを目的としています。			
【ネイチャーゲームに関する問合せ先】 社団法人 日本ネイチャーゲーム協会 (http://www.naturegame.or.jp) 〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-18-20 ルックハイツ新宿 2階 TEL 03-5291-5630 FAX 03-5291-5633			



2 自然について知る

2 - 1 地域の自然を知る

このカリキュラムでは、地域の自然を観察することで、地域の自然に関する理解を深めることを目的としています。

内容としては、地域の自然観察や地形の観察、気象観測、天文観測、史跡めぐりなどがあります。

森や水辺、公園や学校など様々なフィールドはどのような自然の要素で構成され、どのような特徴があるのか、天気の変り変わりについてや、地域の地層とその歴史的背景についてなど、詳しい人に教えてもらいながら自分なりに自然環境を考えます。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

地域の自然観察	地域の自然の中を散策しながら、地域にはどのような自然があり、どのような生きものがすんでいるのかを学びます。
森・水辺・まちの鳥を見る	森林～平地、水辺、市街地など、様々な地域で鳥類を観察し、地域による違いについて学びます。
水生生物による水質調査	きれいな水にすむ生物、汚い水でもすめる生物など、水生生物に注目して、地域の河川の汚染状況などを学びます。
地層の見学	地層を見学し、地質についての知識や、地域の地形・地質の成り立ちを学びます。
岩石の観察	河原などにある石を観察しながら、地域の地質や河川の働きなどについて学びます。
川の観察	瀬や淵などの川の様子や、水の汚れ具合を観察します。
気象観測	気象観測をすることによって、気象の変化や季節による違いを学びます。
星の観察	星の観察を通して、星や星座について学びます。また、星が見えにくくなる原因（大気汚染、光など）についても考えます。
地域の史跡めぐり	地域の歴史資源や天然記念物などを見学しながら、地域の自然や歴史について学びます。



学習プログラム例 1

2 - 1 地域の自然を知る	分野	活動フィールド	季節
地域の自然観察 森の中を見てみよう	自然観察	森林	春夏秋
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 ・身近な森の自然を様々な視点から見て、調査票に記入する。 ・森の中に入り観察することで、森の自然がどのようになっているのかを知る。			
事前に調べておくこと ・見学したい森に入るために、許可が必要かどうか確認する。 ・現地の下見をし、安全上注意すべきことを洗い出しておく。 ・自然観察のガイドブックなどを参考に、具体的に現地でどんなことを見たらよいか、自分なりに整理する。		必要な準備 ・調査票、クリップボード、筆記用具 ・動きやすい服装、軍手、虫眼鏡など ・救急用品	
主な学習内容 <u>観察ポイントを確認する</u> ・参加者に調査票を配り、観察するポイントを確認する。 ・安全上の注意なども確認する。 <u>現地を自由に観察する</u> ・観察ポイントでは、以下のような点から観察する。観察をした内容を調査票に記入する。 ・文章で書くだけでなく、スケッチなどもする。 林床の様子、頭上の様子はどうか。 森にはどんな植物があるのか（木、草、ツルなど）。 生きものはいるか（昆虫、鳥類などが見られたか、鳴き声や足跡、糞などに気づいたか）。 ごみなどはあるか。 <u>観察した結果を話し合う</u> ・森の様子を見てどんなことを感じたか、どんなことに興味をもったのか、気になる生きものがいたかなど、感想を話し合う。 ・もっとよく知りたいことについて話し合う。			
実施時に気にしておくこと ・ウルシや蜂の巣など、触れてはいけないものを確認し、安全に充分注意する。		活動の後で ・見学後森の中で観察した動植物など、興味を感じたものについて調べる。	
いろいろな情報 たとえばこんなところで 宇都宮市森林公園 028 652 3450			

森 の 調 査 票

調査日	年 月 日	氏 名	
<p><u>森の中の植物</u> * 森の中にどんな植物があるか記録してみましょう。</p>		<p><u>地面の様子・頭上の様子</u> * 地面や頭上の様子がどうなっているか、記録してみましょう。</p>	
<p><u>動 物</u> * 森の中にいる動物をスケッチしてみましよう。鳴き声や足跡など、気がついたことも書いておきましょう。</p>		<p><u>ご み</u> * 森の中にどんなごみが落ちているか、書き出してみましょう。</p>	
<p><u>森の中を見て気がついたこと、面白かったこと、調べてみたいこと</u></p>			

学習プログラム例 2

2 - 1 地域の自然を知る	分野	活動フィールド	季節
地域の史跡めぐり	自然観察	史跡	春夏秋冬
私たちのまちの歴史を見よう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の史跡を見学する。 ・見学しながら、その時代の人々の自然との関わりなどについて考える。 			
事前に調べておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある史跡について、位置や概要、安全面について調べる。 ・可能であれば、史跡について詳しい人に説明をお願いする。 		必要な準備 <ul style="list-style-type: none"> ・見学ルートマップ ・史跡の概要について記載した資料 ・救急用品 	
主な学習内容 <p><u>史跡を見る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡について概要の説明を受けながら見学する。 ・詳しく説明できる人がいない場合は、資料などから調べられる内容をまとめて説明する。資料などを探しても分からない場合は、参加者同士で考える項目の一つとして、自由に話し合う。 <p><説明内容の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳：年代、由来、大きさ、形、材質、主なエピソードなど ・城跡：年代、由来、歴史、主なエピソードなど ・天然記念物（樹木）：樹種、年代、大きさ、主なエピソードなど <p><u>史跡について意見交換をする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡について自由に意見交換する。 ・正解がわからなくても、自由に想像しながら話し合う。 <p><意見交換の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳・城跡：なぜその場所に古墳・城跡がつけられたか。 古墳や城がつけられたころ、地域の人達はどんな暮らしをしていたか（どんなものを食べていたのか、どんな住まいにすんでいたのか、食べ物や建材など暮らしの中で使うものをどこから得ていたか） など ・天然記念物（樹木）：その木が、なぜ長い間枯れずにあったか。 例 強い樹種であった（どんなところが強いのか） 生育環境が良かった（どんなところが適していたのか） 人に守られてきた（なぜ守られたのか） など 			
実施時に気にしておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・史跡に関する歴史的事実を知るだけでなく、地域の自然と史跡との関わりについて様々な想像をしながら考える。 		活動の後で <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換の中で、疑問が残ったこと、調べてみたいことなどがあれば、調査計画を立て、資料調査や有識者などへのヒアリングを行う。 	
いろいろな情報			

2 2 生きものの知識を増やす

このカリキュラムでは、地域にどのような生き物がいてどのように生きているのか、生きものがすめる環境はどのような様子かなど、生き物に関する知識を深めることを目的としています。

内容としては、生きものの観察や動植物を育てるなどの活動があります。

森や水辺、公園など様々なフィールドにどのような生き物がすんでいるのか、それぞれの生き物が生息・生育するためにはどのような環境が必要なのかなど、詳しい人に聞いたり、自分で調べながら学習します。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

バードウォッチング	観察を通して、地域にはどんな鳥がいるのかを学びます。
植物標本づくり	植物標本づくりを通して、植物について調べ、植物に関する知識を深めます。
樹林・樹木の観察	様々な樹木を観察し、それぞれの樹木の特徴や季節による変化などを学びます。
水辺の生き物の観察	ホタル、トンボ、カエルなどの観察を通して、水辺の環境や水辺の生き物について学びます。
昆虫の観察	観察を通して、地域にはどんな昆虫がいるのかを学びます。
ザリガニ釣り	ザリガニ釣りを通して、ザリガニがいる環境やザリガニが生態系に及ぼす影響について考えます。
動植物クイズ	クイズを通して地域の動植物を観察し、知識を深めます。
早春の生きもの観察	活気づき始める様々な生きものを探しながら、季節の変化を感じ、生きものがどのように生きているのかを学びます。
季節の植物観察	指導員の話の聞いたり、図鑑を調べたりしながら、植物を観察し知識を深めます。
秋の生きもの観察	秋の植物や鳴く虫などを探し、季節の変化を感じます。
草花を育てる	種まきから花を育て、植物の成長を観察することによって、植物の生育にとって何が大切なのかを学びます。
昆虫のすみかをつくる	昆虫を捕まえて、昆虫がどんな場所にすむのか考えます。
昆虫の飼育	昆虫の飼育を通して、昆虫の生態について学びます。
農作物を育てる	種まきや植付け～収穫までの作業を通して、耕作地では作物がどのように成長するのか、昆虫などどんな生きものがいるのかを学びます。



学習プログラム例 1

2 - 2 生きものの知識を増やす	分野	活動フィールド	季節
季節の生きもの観察 草むらの「春」を探そう	自然観察	野原	春
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 <ul style="list-style-type: none"> ・草むらの中をよく観察し、生きものを探す。 ・早春にはどんな生きものがあるのかを知り、季節の移り変わりを感じる力を養う。 			
事前に調べておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・早春に見られる生きものについて調べておく。 ・安全面の確認。 		必要な準備 <ul style="list-style-type: none"> ・調査票、筆記用具 ・動きやすい服装 ・救急用品など 	
主な学習内容 <u>現地で生きものを探す</u> はじめは自分の力で生きもの（植物、昆虫、鳥など）を探すようにする。 <u>どんな生きものがいたかを報告し合う</u> 一定時間生きものを探したあと集まり、どんな生き物を見つけたか報告し合う。 <u>見つけた生きものを確認する</u> 報告された生きものを確認していく。指導者の方で各生きものについて説明する（名前、特徴、春だけ見られるのものかどうか など）。わからない場合は、後で調べられるように特徴を記録する。 確認したものについて調査票に自由に記録する。			
実施時に気にしておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・安全面での配慮 ・見つけた生きものがわからなくても、一緒に学ぶ姿勢をもつ。わからない場合は、その生きものをよく観察し、色や鳴き声など記録する。独自の名前をつけても良い。 		活動の後で <ul style="list-style-type: none"> ・わからなかった生きものについては、後で調べる。 ・他の場所でも、春の生きものを意識してみようとする。 	
いろいろな情報 たとえばこんなところで 鶴田沼緑地 028 632 2598（宇都宮市公園緑地課）			

学習プログラム例 2

2 - 2 生きものの知識を増やす	分野	活動フィールド	季節
草花を育てる	自然観察	学校、家庭など	春夏
アサガオを育てよう	対象者	参加人数	時間
	子ども、親子	1人から可	複数日
学習のねらいと内容 <ul style="list-style-type: none"> ・種まきの段階から始めて、アサガオを育てる。 ・アサガオを育てることを通して、植物が生育するためには何が必要なのかを学ぶ。 			
事前に調べておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの育て方（いつ、何をすれば良いか）を確認する。 		必要な準備 <ul style="list-style-type: none"> ・植木鉢、支柱、土 ・スコップ ・アサガオの種 	
主な学習内容 <u>アサガオの種をまく</u> <ul style="list-style-type: none"> ・植木鉢に土を入れ、種をまく。 <u>アサガオを育て、観察する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日水やりを行い、アサガオを育てる。 ・生育度合いに応じて、支柱を立てる。 ・途中の生育状況を観察し、スケッチなどにより記録する。観察しながら、水やりの方法、植木鉢の設置場所、日当たりなど、アサガオの生育に適した条件について考える。 			
実施時に気にしておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの世話は毎日行い、生育状況を確認する。 		活動の後で <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの生育記録をまとめる。 ・アサガオが生育しやすい環境について話し合う。 	
いろいろな情報			

2 3 自然の仕組みや人と自然の関わりを知る

このカリキュラムでは、各フィールドにおいて、どのような生き物がどのように関わり合っているのか、また人とどのように関わり合っているのかを学ぶことを目的としています。

内容としては、様々なフィールドでの自然観察があります。自然観察を通して、そのフィールドの生態系の仕組みについて考えます。

生態系の中の「生産者（植物）」「消費者（動物）」「分解者（微生物）」という生き物の関係を意識しながら、各フィールドで生き物がどのように関わり合っているのかを学習します。また、そうした生き物の関係に、人間の活動がどのような影響を与えているかについても考えます。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

森の生きものの関わりを知る	森の中にいる生きものを探し、生きもの同士の関係を学んだり、間伐や下草刈など人の管理が森の生態系とどのように関連しているのかなどを学びます。
土の中の生きものの関わりを知る	森林の土にすむ生きものを探し、その特徴や生態系の中で果たす役割について学びます。
公園の生きものの関わりを知る	身近な公園で見つけた生き物を観察しながら、公園の生きものの暮らし方や人との関わりについて学びます。
野原の生きものの関わりを知る	野原で見つけた生き物を観察しながら、野原の生き物同士の関わりについて考えます。
田んぼの生きものの関わりを知る	田んぼにすむ生きものを観察し、水田の生き物同士の関わり方や、農業や水質汚濁など人の活動との関わりについても考えます。
水辺の生きものの関わりを知る	魚や水生昆虫、植物などを観察し、水辺の生態系や人の暮らしによる影響などについて考えます。
学校の生きものの関わりを知る	学校内にすむ動植物を探し、学校にある自然の様子や、児童や生徒自身と生きものとの関わりについて考えます。



学習プログラム例 1

2 - 3 自然の仕組みや人と自然の関わりを知る	分野	活動フィールド	季節
水辺の生きものの関わりを知る	自然観察	河川	春夏秋冬
魚がすめるのはどんな川？	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	1時間程度～
学習のねらいと内容 ・「魚がすめる川の条件」という観点から身近な川を見て、対象となる川の状況について考える。 ・魚類の生息環境について知るとともに、身近な河川環境の問題点を考えられるようになる。			
事前に調べておくこと ・水辺の生きものや魚の観察についてのガイドブックなどで、魚がすめる環境についておさらいする。 ・安全面の確認。		必要な準備 ・調査票（すめる条件や確認状況を記入したり、現地のスケッチができる欄をつくっておく）、筆記用具 ・動きやすい服装 ・網など ・救急用品	
主な学習内容 <u>魚がすめる環境について考える</u> ・河岸・河床の状況、植生、水量、水質、餌となる生物など、魚がすめる環境の条件について自由に考える。 ・考えた内容を発表し合い、現地でどのような条件について確認するかを整理する。必要に応じて、指導者が補足する。 ・プログラムの実施時間によっては、「確認すること」を指導者があらかじめ用意し説明する。 <u>現地を見る</u> ・安全のために、注意すべきことを確認する。 ・現地に出かけて、「魚がいるかどうか」「検討してきた「魚がすめる条件」は満たされているかどうか」を確認する。目視が中心の確認になるが、可能であれば網で魚を取ったり、水質を調べる。 ・現地の状況をスケッチしたり、気づいたことをメモする。 <u>確認した内容について話し合う</u> ・「魚はいたかどうか」「魚がすめる条件」は満たされていたかどうかを確認しあう。 条件が満たされており、魚もいた場合：その環境を保全するにはどうしたら良いか考える。 条件が満たされているのに、魚がいなかった場合：他の原因について話し合う。 条件が満たされていないのに、魚がいた場合：なぜ魚がいたのか話し合う。 条件が満たされておらず、魚もいなかった場合：その川の改善点について話し合う。			
実施時に気にしておくこと ・安全面での配慮。 ・参加者の理解を深めるため、指導者は一方的に知識を教えるのではなく、まずは参加者が考えてみるようにする。		活動の後で ・興味が深まれば、書籍などを調べたり、他の河川や同じ川の別の地点についても調べてみる。	
いろいろな情報 <p style="text-align: center;">こんな事業をしています。 宇都宮市環境企画課「親と子の水辺教室」</p>			

3 自然のために行動する

3 - 1 自然を守る

このカリキュラムでは、地域の自然を守るためにどのようなことができるのかを考え、具体的な行動を行うことを目的としています。

内容としては、地域の自然の保全活動として、地域の自然環境チェックや豊かな自然の保全計画づくり、森林や水辺の管理活動、地域の美化活動などがあります。

地域にある守るべき自然について知り、理想的な自然環境を考えながら、地域の自然を守るために実際に行動します。

<活動のアイデア> 例えばこんなことをします

地域の自然環境チェック	地域の地図を片手に自然を見てまわり、地域の特徴やどんなところを守りたいと思うかななどを地図に記入して、地域の環境マップをつくります。
自然環境の保全計画づくり	自然を守りたい場所を具体的に選び、どんな風にしたいのかという目標を立て、そのためにどんなことをすれば良いか計画を立てます。具体的な計画ができたなら、実際の行動に結び付けます。
森林の間伐や下草刈	森林の管理活動を通して、森林保全に貢献し、森林保全の大切さに気づきます。
水辺の管理活動	河川などの草刈や、沼干し、清掃などを通して、地域の自然環境保全に貢献し、自然環境保全の大切さを学びます。
地域の美化活動	地域の美化に貢献し、地域の自然環境の保全について考えます。ゲーム感覚の活動にするなど、楽しい活動になるように工夫します。



学習プログラム例 1

3 - 1 自然を守る	分野	活動フィールド	季節
水辺の保全活動	保全活動	河川	春夏秋冬
身近な川を守ろう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	複数日
学習のねらいと内容 ・身近な川について現地を確認し、どんな所を保全したいのか、改善したいのかを考える。 ・身近な自然に目を向け、自然を守りたいという気持ちを芽生えさせる。			
事前に調べておくこと ・自分達にとって身近な川、守りたい川を選ぶ。 ・活動が複数日かかるため、全体スケジュールやそれぞれの活動日の進め方などを検討する。 ・現地の安全面の確認		必要な準備 ・現地の地図 ・話し合った意見をまとめるための模造紙、筆記用具などの文具 ・カメラ など ・救急用品	
主な学習内容 <u>現地について調べる</u> 図書館や行政機関などで、対象となる川の歴史や自然環境などについて調べる。 <u>現地の様子を確認する</u> 現地の地図を持って、現地を歩く。その際、気が付いたことを地図に書き込む。 例：どんな生きものがいたか、良い(悪い)と思ったところはどこか など <u>身近な川をどうしたらよいか考える</u> 調べた結果を整理して、対象の川がどのようになると良いか、自分はその川をどんなふうに使いたいのかといったことを考え、話し合う。 <u>意見をまとめ、表現する</u> ・話し合った内容をまとめ、地図に書き込む。 「ここはこうして欲しい」というコメントだけでなく、「この色の部分はこうして欲しいところ」といったゾーニング、現地の写真の貼り付けなども行う。			
実施時に気にしておくこと ・安全面での配慮。 ・声の大きいメンバーの意見だけでなく、参加者全員に意見を出してもらい、話し合って意見をまとめられるように配慮する。		活動の後で ・まとめた意見をどのように活かすか考える。 例：発表する。 地域の川を守るための提言として、行政機関に渡す。	
いろいろな情報			

学習プログラム例 2

3 - 1 自然を守る	分野	活動フィールド	季節
森林の管理活動	保全活動	森林	春夏秋冬
森林の下草刈りをしてみよう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	2時間程度～
学習のねらいと内容 <ul style="list-style-type: none"> ・森林の下草刈りや清掃活動を行う。 ・身近な森林の管理活動の大切さを学ぶ。 			
事前に調べておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・活動したい森林の所有者を調べ、活動をしてよいかどうか所有者に確認する。あわせてその森林で行う作業内容や活動範囲、安全面などについても確認する。 ・管理活動に詳しい人を探し、指導をお願いする。 ・市役所に相談するなどして、管理活動で集めたゴミの処理方法を決めておく。 		必要な準備 <ul style="list-style-type: none"> ・軍手 ・カマ、剪定ハサミなど作業をするための道具 ・ゴミ袋 ・ヒモ ・救急用品 	
主な学習内容 <p><u>作業内容を確認する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下草刈りやごみ拾いなど、作業の内容（どのように作業するか、できたごみをどのように処理するかなど）について確認する。 ・作業する範囲や時間配分について確認する。 ・安全面での注意事項を十分に確認する。 <p><u>作業を行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を決めて作業を行う。 ・チェーンソーなどの道具は、慣れていない人は使わない。 <p><u>後片付けを行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理作業によってでた草・枝やごみは、きちんとまとめて処理する。 ・道具類はよく洗うなど、手入れを行う。 			
実施時に気にしておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・道具の取り扱い、ガラスなどの危険物、ウルシ・ハチなどの生き物への注意など、安全管理には特に注意する。 ・適宜休憩時間を設ける。 ・作業後に簡単な食事を用意するなど、楽しい活動になるように工夫する。 		活動の後で <ul style="list-style-type: none"> ・作業を通じて感じたことを話し合う。 ・同じフィールドで継続的に管理作業を行う、別の場所で同様の作業を行うなど、今後の取り組みについて話し合う。 	
いろいろな情報 <p>こんな事業をしています 宇都宮市農林振興課「森林整備教室」 「親子森林体験教室」</p>			

3 2 自然を豊かにする

このカリキュラムでは、地域の自然をより豊かにするために、具体的な行動を行うことを目的としています。

内容としては、地域のエコアップ計画づくり、植林活動や花いっぱい運動などの緑化活動、様々な生き物のビオトープづくりなどがあります。

植林活動は林業者の方の協力が必要です。また、ビオトープづくりは、簡単な活動から始めて、継続的な観察や専門家への相談などを行いながら、徐々に取り組みを広げていくことが望まれます。

< 活動のアイデア > 例えばこんなことをします

地域のエコアップ計画づくり	今よりもっと自然を豊かにしたい場所を具体的に選び、その場所をどのようにしたいのか目標を設定して、具体的にどのような活動をすれば良いか計画を立てます。具体的な計画ができれば、実際の行動に結び付けます。
木を育てる	育苗や植樹などを通して、木の成長の様子を観察し、地域の緑化に貢献します。実施する際は、地域の林業の方に相談し、協力してもらう必要があります。
花いっぱい運動	学校や公園、道路などの公共空間などで、花いっぱい運動などを行い、地域の緑化に貢献します。地域への愛着や、草花を大切にすることを育てます。
ビオトープづくり	生き物がすみやすい環境づくりを行います。ホタル・トンボなどの昆虫類、鳥類、魚類など、具体的な対象を決めると取り組みやすくなります。ビオトープづくりは試行錯誤しながら時間をかけて取り組む必要があります。また、初めから大掛かりなビオトープづくりに取り組むのではなく、簡単なことから始めて、効果を観察しながら徐々に取り組みを広げていくことが望まれます。



学習プログラム例 1

3 - 2 自然を豊かにする	分野	活動フィールド	季節
ビオトープづくり	保全活動	学校、家庭など	主に春夏
トンボのすみかをつくろう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	複数日
<p>学習のねらいと内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然度の低いまちの中であっても、コンテナなどを使った簡易な池をつくることで、トンボを呼び寄せることができる。 ・手軽にできる地域のエコアップとして、簡易なトンボ池をつくりトンボの誘致実験を行う。 ・観察を通して、トンボがすめる環境や身近な環境のエコアップについて考える。 			
<p>事前に調べておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍などで、トンボの生態や簡易なトンボ池づくりについて知識を習得し、つくり方について有識者などに相談する。 ・トンボ池を、長期間設置できる場所が確保できるかどうか確認する。 		<p>必要な準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販のプラスチックのコンテナなど ・ホテイアオイなどの水生植物（入手できれば） ・動きやすい服装、軍手など ・観察用の調査票 	
<p>主な学習内容</p> <p><u>事前準備をする</u> 設置計画を立てる。設置場所やスケジュールなどを検討する。</p> <p><u>簡易なトンボ池を設置する</u> コンテナなどに水を張って設置する。 <設置環境のポイント> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の屋上、ベランダ、庭など、トンボが上空から水面を確認できる場所を選ぶ ・水温が高くなってしまふ場所は避ける ・夜間照明のないところを選ぶ など </p> <p><u>トンボ池を継続的に観察する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・設置したコンテナを継続的に観察し、観察日ごとに気づいたことを記録する。 ・水替えや水の補給は、一度に行わず、数回に分けて少しずつ行う。 </p> <p><u>観察結果をまとめる</u> <ul style="list-style-type: none"> ・設置時からの経緯を簡単にまとめる。 ・トンボが誘致できたかどうかだけでなく、他の生きものの状況などについても考える。 ・誘致できなかった場合は、その原因について話し合う。 </p>			
<p>実施時に気にしておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに結果が現れなくても、継続して観察する。 ・観察しながら、トンボを誘致するためにはどうしたら良いか考え、工夫する。 		<p>活動の後で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易なトンボ池を今後も続けるかどうかを検討する。興味が深まれば、有識者に相談しながら、本格的なトンボ池づくりへの展開なども検討する。 	
<p>いろいろな情報</p>			

学習プログラム例 2

3 - 2 自然を豊かにする	分野	活動フィールド	季節
地域のエコアップ	保全活動	家庭、公園、学校など	春夏秋冬
まちのみどりを増やそう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	複数日
学習のねらいと内容 ・まちの中を調査して、どんな所で緑が増やせるか考える。 ・緑を増やす方法を具体的に考えて、実行する。			
事前に調べておくこと ・参加人数や調査日数、安全面などを考慮して、対象地域を設定する。 ・調査日を決める。		必要な準備 ・地域の地図 ・筆記用具（色鉛筆、サインペンなど） ・カメラ（できれば） ・救急用品など	
主な学習内容 <u>対象地域を歩いて、地域のみどりを調査する</u> ・森、公園、街路樹、緑の多い庭など、地域の緑の状況を地図に記載する。記載する時は、緑の種類別に地図に色を塗ったり、気になったことについて地図にコメントを記載する。また、可能であれば現地の写真を撮影する。 ・緑をチェックする時は、以下のような点に気をつける。 * 緑が多く、残しておきたいところはどこか。 * 緑が少なく、緑を増やしたいと思うところはどこか。 * ごみが多い、荒れているなど、改善すべきところはどこか など <u>調査した結果をまとめる</u> ・調査した結果をまとめる。 ・特に緑が少なく、増やしたいと思うところはどんなところか、具体的に整理する。 <u>緑化計画を立てる</u> ・緑を増やしたいと思うところの中で、実際に緑化に取り組みそうなところを選び、緑化計画（いつ、どこで、誰が、どんな植物で、どのように緑化するか）をたてる。 ・学校、道路、公共施設などを選ぶ時には、関係機関に相談する。 <u>実行する</u> ・計画を実行に移し、緑化作業を行う。			
実施時に気にしておくこと ・地域の緑を調査する時は、自動車事故の防止など、安全性の確保に充分留意する。		活動の後で ・緑化作業ができた場合は、作業後の経過を観察し、記録する。 ・計画を立てても、自分たちだけでは実施することができない場合は、地域の自治会や市などへ計画内容を伝え、相談する。	
いろいろな情報			

4 取り組みを広げる

4 - 1 自主的に考えて行動する

このカリキュラムでは、自分で興味を持ったテーマについて、自ら活動内容を考え行動し、環境に対する認識を深めることができるようになることを目的としています。

学習活動の参加者が、個人やグループで学習テーマや活動方法を設定し行動するという自由研究の形式のカリキュラムです。活動した内容を報告し合い、お互いの活動について意見交換することで、知識や考え方を深めることができます。学習テーマは参加者が自由に設定しますが、活動場所ごと、あるいは「自然について調べる」「エコアップ計画をつくる」などの取り組みごとのように、大まかな共通テーマを設定しておくとうりやすくなります。

指導者は、参加者に興味のあるテーマについて気づかせたり、興味をもった内容についてさらに深めるためにはどのような方法があるのかといったアドバイスやサポートを行います。

< 活動のアイデア > 例えばこんなことをします

自由研究

地域の自然を学ぶために、自分でテーマを設定し、自ら調べます。指導者は、テーマ設定や調査方法などのサポートを行います。

共通テーマは、活動場所ごと、「調査」「計画づくり」「保全活動」などの取り組みごとなどで設定します。

* 共通テーマの設定例

- ・ 地区の自然について調べる
- ・ 地区の環境を守るために自分にできることを考える
- ・ 学校のエコアップ計画を立てる



学習プログラム例 1

4 - 1 自主的に考えて行動する	分野	活動フィールド	季節
環境のためにできることを考えよう	全般	選んだテーマに応じて決めましょう	春夏秋冬
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	複数日
学習のねらいと内容 環境のためにできることを、自ら考え、行動に移せるようにする。			
事前に調べておくこと ・具体的な取り組みを考えやすいように、取り組み事例を集める(環境調査、地域の保全活動など)。	必要な準備 ・考える場所の確保 ・紙、筆記用具 ・取り組み事例の参考図書 など		
主な学習内容 <u>興味を整理する</u> ・自分達の興味やこれまでの取り組みから、どのテーマについて何をしたいのかを決める。 例：地域の川について調べてみたい、近所の森の自然を守りたい など <u>活動方法を考える</u> ・どんな方法で取り組めばよいか、考える。 例：本を調べる、インタビューをする、フィールドで活動する など <u>活動計画を立てる</u> ・考えた内容を元に具体的な計画を立てる。自分の行動できる範囲で、無理のない計画を立てる。 例：いつどこで活動するか？、具体的な行動内容は？、必要な準備は？、誰に聞くか？、活動時間は？安全面の配慮は？など <u>活動する</u>			
実施時に気にしておくこと ・指導者は、参加者が自分で興味を整理したり、無理のない活動計画を立てられるように、参加者と話し合いながらアドバイスを。	活動の後で ・活動してみて、どんなことが良かったか、反省すべき点はどんなことか、次に活動する時にはどうしたいかなどを考える。		
いろいろな情報			

4 2 取り組みを伝える

このカリキュラムでは、野外環境学習活動で学んだことを通し、自分がどのようなことを学んだのかを他の人に伝えたり、他の人がどのようなことを考えているのかを知ること、自らの環境に対する認識を明確にし、取り組みをさらに深めていくことを目的としています。

内容としては、活動発表や意見交換のほか、他の人の取り組みについて調べたり、指導者になるための研修に参加することなどがあげられます。自分の考えや知識、活動をどのように伝えたら良いか、他の人の考えや知識、取り組みを自分の考えや取り組みにどう結びつけるのかを考えます。活動方法は、学習の参加者が自ら考えて企画します。地域内や学校内などの人に限らず、県内・国内・海外などの様々な人達との交流を行うことも考えられます。

< 活動のアイデア > 例えばこんなことをします

活動発表	環境調査の結果や環境保全活動の状況など、自分の取り組みを発表します。発表方法としては、発表会を行う、壁新聞などにまとめて公表する、ホームページを作成するなどがあります。
意見交換	活動発表などの情報発信とともに、他の人たちとの意見交換を行います。環境フォーラムなどを開催して話し合います。
他の人の取り組みを調べる	自分の取り組みと同様の他の人の取り組みを調べます。手法としては、関連する書籍を調べる、インターネットで検索する、関係者にヒアリングを行うなどが考えられます。
指導者研修への参加	指導方法や配慮事項について学びます。



学習プログラム例 1

4 - 2 取り組みを伝える	分野	活動フィールド	季節
他の人の考え方や取り組みを知る 他の人に学ぼう	全般	選んだテーマに応じて決めましょう	春夏秋冬
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	1人から可	複数日
学習のねらいと内容 ・他の人たちが、自然環境を守るためにどのようなことを考えて、どのようなことをしているのかを調べ、自分の取り組みにどのように活かしていったら良いかを考える。			
事前に調べておくこと ・調べる方法を決めるためのアドバイスができるように、図書館、インターネット、有識者、関係機関など、情報を調べるための方法をリストアップする。	必要な準備 ・考える場所の確保 ・意見をまとめるための模造紙や筆記用具など		
主な学習内容 <u>調べる内容を決める</u> ・自分の興味やこれまでの取り組みから、どのようなテーマについて調べるかを定める。 <u>調べる方法を決める</u> ・どのような方法で調べれば良いか（資料を調べる、人に聞く、現地に行くなど）を決める。 ・調査票などが必要であれば、準備する。 <u>調べる</u> <u>調べた結果をまとめる</u> ・調べた結果を図表などにまとめて整理する。 <u>調べた結果について考える</u> ・結果を見ながら、他の人の取り組みの良いところ・悪いところを考え、自分の取り組みにどのように活かせるのか、活かすとしたらどのような方法か、といったことを考える。			
実施時に気にしておくこと ・単に活動事例を調べるのではなく、環境のために自分がどのようなことをしたいのか、どんなことが取り入れられそうかということを意識する。 ・現地調査をする時など、安全面に充分注意する。	活動の後で ・すぐに行動に移せそうなことがあれば、実践に結びつける。 ・他に調べてみたいテーマについて考える。		
いろいろな情報			

学習プログラム例 2

4 - 2 取り組みを伝える	分野	活動フィールド	季節
取り組みを発表する	交流する	選んだテーマに応じて決めましょう	春夏秋冬
環境フォーラムを開こう	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	複数日
学習のねらいと内容 ・自分の考えや取り組みをまとめ、他の人に伝える。 ・意見交換を行い、他の人の考えや取り組みを、自分の活動に反映させる。			
事前に調べておくこと ・環境に関するフォーラムやシンポジウムなどの開催例を調べる。	必要な準備 ・開催日の設定 ・開催場所の決定		
主な学習内容 <u>開催計画を立てる</u> ・フォーラムのテーマ、目標、対象者などを話し合っで決める。 ・フォーラムのプログラム（活動発表をする、ゲームをする、ビデオなどを見る、講演を行う、パネルディスカッションをする、参加者全員で話し合うなど）を検討する。 ・開催スケジュール配分、役割分担、必要な準備、宣伝方法などを検討する。 ・検討内容を開催計画書にまとめる。 <u>開催準備を行う</u> ・発表資料や配布資料（開催プログラム、説明資料など）など必要資料を用意する。 ・必要に応じて、講演依頼などを行う。 ・チラシの作成などを行い、フォーラムの開催を宣伝する。 ・会場の下見、会場準備を行う。 ・リハーサルを行う。 <u>フォーラムを開催する</u> ・写真・ビデオなどで、開催状況を記録する。 <u>開催記録をまとめる</u> ・開催状況、意見交換の内容などをまとめる。			
実施時に気にしておくこと ・準備期間を充分にとる。 ・フォーラムの企画・運営は、充分に話し合っで決める。 ・役割分担・作業量に偏りが出ないように配慮する。	活動の後で ・意見交換の結果などを踏まえて、今後の活動にどのように活かすか考える。		
いろいろな情報			